

## 平成27年度自己評価書

## 1 本年度の学校評価をふりかえって

秋商キャリア教育をもとに、日々の授業を大切に、ビジネス実践や外部講師などを活用して、社会人基礎力を身に付けさせ、主体的に物事を考えさせる取り組みをしている。

教職員は、一人一人が高い意識を持ち、学校全体として取り組んでいる。今後も商業高校の教育の特色を活かし、秋田県商業教育の中心校としてその役割を果たすべく、保護者アンケートを参考にした自己評価と学校関係者の意見を真摯に受け止め学校の発展に努めていきたい。

## 2 評価結果の概要

分野	評価項目	取り組み状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
本年度の目標	・キャリア教育の充実を図り、手応えのある実践	・キャリア教育の冊子を利用して3年目。計画的にLHR等で活用が進んでいる。 各授業でキャリア教育を意識した実践を積み重ねていく。	B	・キャリア構造図の見直しをして、目指すことと行動を一致させていく。	具体的でわかりやすい冊子になっている。生徒の自己評価の充実がカギではないか。
教育課程	・教育課程について全職員が再認識し、日常の学習活動に効果が現れるよう明確な目標を持った取り組み	・教育課程検討委員会を開催し、評価と改善を図っている。 各教科の科会を充実させ、組織的な授業改善に取り組んでいる。	A	・各教科において、学習意欲が向上するよう、授業改善に努める。	商業の特色のある授業が外部に見えるようにしてほしい。
学習指導	・主体的学習態度の育成により、基礎学力の定着を図り、学力の向上	・学習意欲を高めるために授業改善に努め、本時の目標を常に示すことができた。 基礎学力向上テストも定着してきている。	B	・アクティブラーニングを実践し、授業改善に努める。	高度な資格取得を実現して欲しい。
進路指導	・進路意識の早期確立と学年進行に応じた継続的な進路指導 ・進路情報の的確な収集と提供	・学年進行に応じた継続的な進路指導を行った結果、就職・進学とも高い実績を上げた。早い時期から自分の学力を把握させ、よりいっそうの学習の必要性を認識させるような指導が必要である。	B	・進学・就職・公務員のいずれかにおいても早い時期からの指導を心がけ、実践する。	100%近い進路実現をしているところを継続して欲しい。
生徒指導	・高校生らしい立ち居振る舞いの育成 ・明るく正しい挨拶と正しい言葉遣いの育成 ・交通安全指導の徹底	・学年部と生徒指導部を軸とした連携のもと、日々の指導がおこなわれている。マナー等で外部からの指摘を受けることがあり、「全職員による共通実践」のもと、継続した指導が望まれる。	B	・基準を明確にし、不公平感のない連携のとれた指導を徹底することで、生徒の心の成長を促す。	挨拶がしっかりしているところは継続してほしい。 校外では秋商の誇りをもって行動してほしい。
保健	・校内の安全、美化に努め、生徒を取り巻く環境の整備	・定期的に校内安全点検を実施し、改善できる部分は随時改修・保全がおこなわれている。	B	・校内点検を継続し、情報提供および実践的な防災教育に努める。	特になし。
教育相談	・心身の諸問題の解決を積極的な支援	・学年部や保健・教育相談部が連携をとりながら、生徒の悩みに応じたことで、安心して学校生活を送ることができている。	B	・多様な生徒の実態に応じた、きめ細かな対応と適切な指導、および情報共有ができる体制を確立する。	特になし。
特別活動	・自己実現を促す計画的・組織的なHR活動の支援 ・全校生徒参加による自主的・創造的生徒会活動の支援	・学校行事や部活動等を通じて自主性・創造性が育まれている。今後は活動内容の充実と地域社会への理解を深め、貢献の度合いを高めていくことが課題である。	A	・地域や保護者との連携が深められる事業に改善しながら、全職員による指導体制を確立する。	硬式野球やサッカー、レスリングなどの活躍は素晴らしい。 AKISHOP等は新鮮さを出す。
家庭地域	・計画的なHP更新やメール配信等の活用による、迅速で広範囲な学校情報の提供および管理	・HPでは、生徒の活躍や学校行事の状況など最新の情報を提供した。一斉メール配信により非常時の連絡もできている。また、個人情報については、職員が危機感を持って管理している。	A	・HPの迅速な更新や、クラス通信・学年通信等の発行、メール配信を利用した情報発信に今後も努める。	HPは更新回数が多く学校の様子がよくわかる。
図書	・情報センターとしての図書館利用の活性化 ・図書委員会活動の充実	・図書館で授業がやりやすいように設備の充実に努めた。 ・生徒主体で「図書館便り」を作成した。	A	・今後も生徒主体の取り組みを継続し、スキルアップを図りたい。	特になし。

